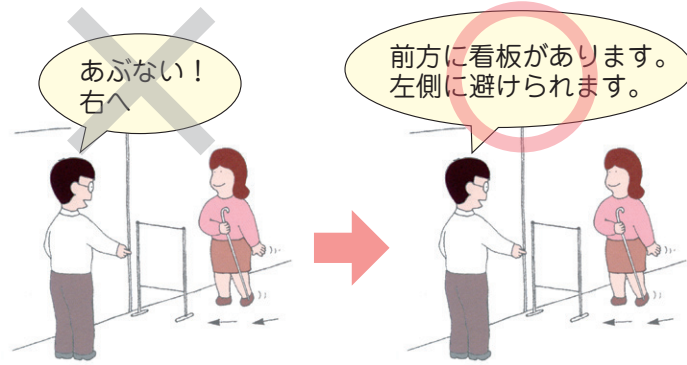


支援のポイント

わかりやすい説明をする時のポイント

- 1 方向や位置を説明するときは、視覚障害のある方の向きを中心にしてください。向かい合っていると、説明者とは左右が反対になるためです。
- 2 代名詞や、指差し表現ではなく、「あなたの右」、「スマートフォンくらいの大きさ」などと、具体的に説明してください。「あそこに」「むこうに」という表現や指差しでは、正確にわからないからです。
- 3 商品を選ぶときなど、触られる物には、触らせてください。物の材質、形や大きさなどは、言葉だけの説明よりも、触った方がよくわかります。



誘導(移動の手伝い)のポイント

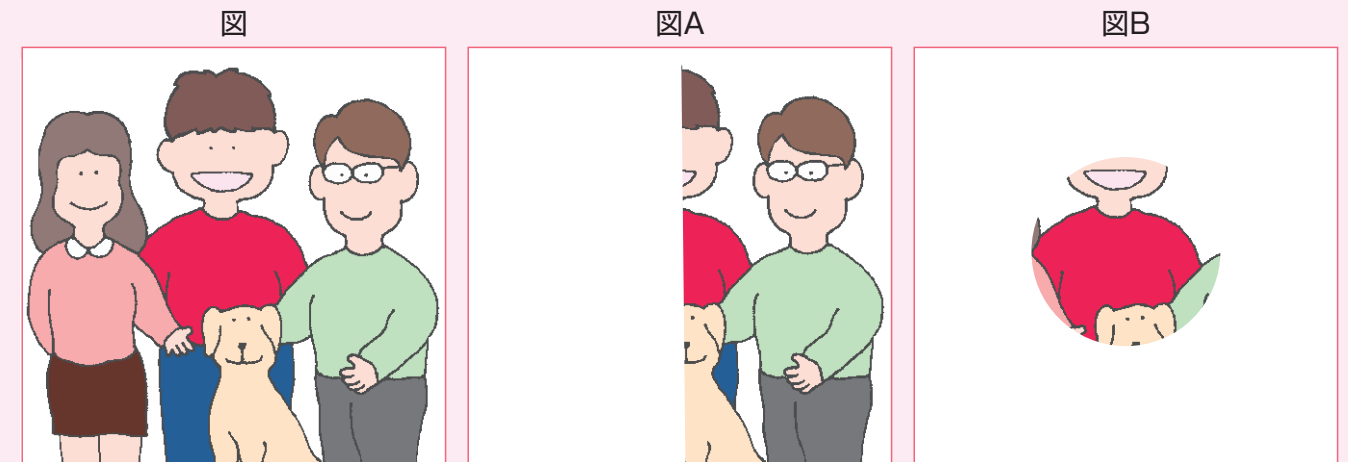
- 1 まず、どのように誘導すればよいか聞いてください。誘導の受け方は人によって違います。決めつけた対応をしないようにしましょう。
- 2 あなたが前に立ち、あなたの腕や肩をつかまってもらうことが基本です。歩く速度は視覚障害のある方に合わせます。
- 3 短い距離であっても、腕や白杖をつかんだり、肩や背中を後ろから押さないでください。動きを拘束されると、安心して歩くことができませんし、足や杖で前方を確認することもできなくなってしまいます。
- 4 段差や階段の直前ではいったん止まって、「下りの段差です」「上り階段です」などと教えてください。「階段」と言われただけでは、上りか下りかわからないからです。
- 5 別れるときは安全な場所で、本人の立っている場所と向いている方向を伝えてからにしてください。誘導者と別れた後で、下り階段などで転落する危険のないような場所を選びます。



視覚障害の理解のために

視覚障害って、どんな障害?

ひとことで視覚障害と言っても、さまざまな見え方があります。まったく見えない、文字がぼけて読めない、物が半分しか見えない(図A)、望遠鏡を通してしか見えない(図B)などです。このようなことから、文字を読むことができても、歩いているときに障害物にぶつかったり、つまずいてしまう方や、障害物を避けてぶつからずに歩くことはできても、文字は読めない方もいます。



まずは、声をかけてください

困っていても視覚障害のある方から援助を求めることは難しいので、戸惑っている姿を見かけたときは、まず、「何かお手伝いしましょうか?」などと、声をかけてください。そして、援助を求められたら、どうすればよいか確認してください。ちょっとした援助が、より安全で安心な外出につながります。



盲導犬について...

盲導犬は、視覚障害者の生活を支えるために特別な訓練を受けています。街中で、盲導犬を見かけた時は、作中だということを忘れないで、邪魔をせず温かく見守ってください。



また、白杖を持っている・盲導犬と一緒にいるように、一見して目が不自由とわかる人もいますが、外見からは、目が不自由とわかりにくい方もたくさんいます。「見えにくいので……」「視覚障害なので……」などと言われたときは、目が不自由と判断してください。

ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/helpmark.html



令和6年6月

発行：東京都心身障害者福祉センター 東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ
電話 03-3235-2952

東京都
再生紙を使用しています

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。